

平成30年度 大阪市社会教育委員会議 第2回全体会 議事録

1 日 時 平成30年12月14日（金） 10時00分～12時00分

2 場 所 大阪市立総合生涯学習センター

3 出席者

（委員）

岡本委員、神部委員、高田委員、辻本委員、出相委員、野崎委員、前田委員
正岡委員、松山委員、柳本委員、善積委員

（教育委員会事務局・区役所）

山本教育長、三木生涯学習部長兼市立中央図書館長、
川窪利用サービス担当課長、松村生涯学習担当課長、植木文化財保護課長
向生涯学習担当課長代理、原田社会教育施設担当課長代理
米田区役所人権生涯学習主管課長会幹事（代理）

（こども青少年局）

杉谷青少年課長

（経済戦略局）

廣原文化課長

4 議事概要

（1） 開 会

（2） あいさつ

（3） 出席委員・出席関係職員紹介

（4） 報告事項

- ・社会教育委員の異動について
- ・第3次生涯学習大阪計画進捗状況について
- ・大阪市における教育コミュニティ事業について

（5） 議 案

- ・社会教育委員会議の議長・副議長について
- ・社会教育委員会議への諮問について
- ・小委員会について

5 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(社会教育委員会議への諮問について)

(小委員会について)

【事務局】

第3次「生涯学習大阪計画」が2020年に計画期間を満了いたしますので、次期計画の検討に先立ちまして、社会教育委員の皆様からの意見具申を頂戴してまいりたいと考えております。平成29年3月、社会教育法の改正で、地域学校協働活動が法的に位置づけられ、地域と学校がパートナーとして社会総がかりでの教育の実現を目指すとされております。

そして、大阪市としましては、今後の地域の生涯学習事業に向けまして、学校との協働や開かれた学校づくり支援がますます具体的な形として求められるように考えております。地域の生涯学習施策（学区教育コミュニティ事業等）の現状把握について、本市の地域の生涯学習施策（教育コミュニティ事業等）に係る諸課題の整理について、そして、今後の地域と学校の協働による生涯学習の推進に向けた具体的方策について、以上3点につきまして、皆様からご意見をいただきたく、このたび教育委員会より諮問を受けたものでございます。

また、諮問に当たりまして教育委員会の皆様からは、現状把握についてはデータに基づいた現状把握の必要性、あるいは世代間交流の活性化、そしてまた、人生100年時代でもございますリカレント教育の課題、そして、必要な人に必要な学びを届ける視点、本市の生涯学習関連施設の所在状況ですとか課題、そして子どもの放課後事業等の連携、また家庭教育等の展開などについても視野に入れていただくようご意見を頂戴しております。

意見具申の取りまとめにつきましては小委員会、ワーキングチームとして開催いたしまして、具体の検討作業を進めて、全体会で確認、あるいはまた意見をいただいで調整していくこととしたいと考えております。

【神部議長】

地域と学校の協働による生涯学習について、諮問を受けたということで、地域学校協働活動ということはこの大阪市でどう進めていくのかということ、質疑も含めて、ご意見をお伺いしたいと思います。それをたたき台にしながら、小委員会のほうで議論し、全体会

に返していくというような形になっていくかというふうに思います。これからの地域学校協働活動を進めていく上での柱、キーワード、そういったことに関してのご意見ということです。いかがでしょうか、

【高田委員】

学校と地域の協働というのは理念としてはわかりますが、今の地域の状況を見ると、そう簡単ではないと思うわけです。その辺に関して、現場の実情をちょっと委員の皆さんにもお聞きしたいと思います。

1つは、貧困や格差の問題。貧困の問題というのはお金がないだけじゃなくて、地域社会の中での家族の孤立とか、あるいは、子どもの不登校の問題にもつながります。

もう1つは、大阪市内には、特に中心部を見ますと、いわゆるニューカマーの外国から新しくやってきた人たちが非常に増えています。新しくやってきた方、外国からやってきた方は、既存のいろんな団体や組織には入っていないわけです。貧困や社会的孤立の問題にどう立ち向かうのかということ、地元住民と新しくやってきたニューカマーと呼ばれるような外国から来た人たちの関係をどうつくっていくかということが重要な論点になるのではないかなと思いました。

【辻本委員】

私は、朝、子どもたちの登校に立ち会って、学校協議会等かなりかかわってくるんですけど、子どもの貧困について学校協議会で話が出たんですが、朝食を食べてこない子が多いということで、学校は地域で対応していただかないと、今の学校の予算ではできない。地域で対応できるのであれば、協力すると言われている。

そして、その中で、一番今学校で困っているのは、外国の方が、地域で住まれて、学校に来られると、そういったときに、非常に先生がその子たちに、ものすごく手が取られている。区役所に専門員の方がいて各学校に回っているが、一人で全部の小学校を回る、中学校に行くのは困難です。そういった部分をもう少し教育委員会としては手厚くしてほしいなという感じはいたします。

【野崎委員】

私は兵庫県で外国人支援のNPOにかかわっており、外国人の子どもの学習支援活動にも少しかかわっているということと、あとは人権教育が専門ですので、そういう多文化共生にかかわる人権というところで大阪の状況についてお聞きしたいなと思って発言させていただきます。例えば、特別なニーズを持っている子どもというのが多分、貧困、障がいを持っている、外国にルーツを持っている、特にニューカマーの方だと言葉の問題だったり習慣の問題というのがありますけども、他にも、そういう子どものニーズ、学校のニー

ズというのがどういうふうに拾われて、地域と学校の連携の中で、はぐくみネットなどの事業がどんなふうにかかわっているのか、いないのか現状を聞きたい。

例えば外国にルーツを持っている子どものご家庭だと、日本語にハンディがあって、地域の中でも孤立しています。特に母親が外国人だった場合の孤立度合いというのは相当なもので、子どもの教育、勉強を見てあげられない中で、保護者の中でも孤立し、学校ともコミュニケーションがとれないというところでなかなか難しいところでもあります。入管法が改正されましたけど、ますます外国人が増えていく中で、地域の課題も増えていく中、ソーシャルインクルージョンの取り組みがすごく大事になってくると思う。そういうお子さんの特別なニーズというのを拾い上げるための何か研修みたいなのを受けておられるのかとか、ちょっとその辺をお聞きしたいなと思いました。

【柳本委員】

はぐくみネットのコーディネーターとしては、研修を受けていませんけども、今、子ども食堂というのができておりまして、私たちのところでもお手伝いをさせていただいております。各小学校に外国の子どもたちがたくさん入っております。お母さんとお話することがあったり、おばあちゃんも一緒に来られたりして、一緒に学校の学びをされております。ですので、これからも課題だと思っております。

【松山委員】

私、PTA協議会の会長として今、大阪市の子どもたちの実態、今問題とされている部分、1つは貧困問題。これに関しては、地域によっては、子ども食堂の開設などでカバーしようという地域も実はあります。これは登校前に、特に子どもが朝食を食べてこないということで、これは不登校にもつながっておりまして、昼食だけ食べに来る子どもや、朝は来ずに、両親が共働き、または片親世帯で、早くに両親が先に出ていってしまうと、子どもだけになってしまいます。その後子どもが学校へ自発的に時間どおりに行かない。こういった子どもが実は増えているのも事実としてあります。昼食だけ食べて、帰るといふ子どももいます。その対策として、学校や地域のコミュニティ会館を中心に、朝食を食べさせて、それから学校へ登校させる取り組みが増えてきているんですかね、全区的にも。もう1つは、ニューカマーと呼ばれる外国人等の方々の問題。例として浪速区でニューカマーの方が増え、学校によっては20%ぐらいそういうニューカマーの方がおられるという実態もございます。そんな中で、やはり学校園はそういった専門職、特に第一外国語である英語を話せる人材を増やし、また、地域でも話せる方が中心となって、子どもと、また保護者と学校をつなぐというようなことも必要かなと思っております。

そんな中で、はぐくみネットでは、コミュニケーションを図るための餅つき大会、縄飛

び、いろいろな遊びを交えて取り組んでいます。保護者向けには、生涯学習ルームで、日本語サロンを活発に取り組んでいます。年々日本語サロン参加者が増え、ここには中国、ベトナム、タイ、アジア圏の方々が多いんですけども、イギリス人の方もいらっしやって、生涯学習ルームを通じて、日本語サロンでしっかりとコミュニケーションをとっていくというようなことも、これから、各地域でも必要。

最後に、PTA活動について、教職員と、保護者、あとは学校、地域をつなぐ組織ということで運営していますが、今、少子化もあり、学校園全体では、子どもはぐっと減っております。一部の地域、北区、西区、それから中央区は、外国人じゃなくても、よその地域から来られた方がすごく増え、学校もかなり手狭になっている状況です。そんな中で、新しい方々にとっては、参加していただきたきにくいというような状況。役員不足で抽選をというようなところも実は出てきています。我々としては、他区であっても、全市としてサポートしていくという組織体ですが、これだけ目まぐるしく地域のほうも変わってきますと、どこまで対応できるかと、非常に大きな問題かなと思っております。

【神部議長】

滋賀では100カ所を超える子ども食堂がある。地域食堂と位置づけ誰でも自由に来ていいとしている。そうやって開けば、子どもたちと地域の人たちとのつながりとかがまた生まれてきているという事例もよく聞いていますので、1つのキーワードになるかもしれませんね。

【前田委員】

5年ほど前まで小学校教員をしており、その頃はフィリピンの子どもの多かった。外国人の方には孤立させない取り組みが大切。PTAの活動の中で、料理教室をし、フィリピンのお母さんに料理を教えることで交流が進んだ。言葉はなかなか話せなくても、何とか皆さんの中に入れていける。子どもには総合的な学習の時間にフィリピンの遊びを皆に教えたり、日本の子はけん玉を教えたり。そういういろいろな遊びを通して仲間づくりをしていた。はぐくみのコーディネーターの方もかかわりながら、もっと地域でやっていけないかなと、思っております。

【岡本委員】

青少年指導員の立場として、青少年の健全育成、非行防止という中学生を対象として活動しているが、学校の連携との中で、学校の誰と連携するのかという話がよく出てくるんですけども、地域の中での声のかけやすさであったり未然に防ぐような活動、例えば、地域教育は、非常にいいこととご理解をいただき、校長先生のご理解をいただいたとしても、例えば、クラブ活動があったときに、クラブ活動はどうしても優先せざるを得ない。

でも、地域活動、地域教育の重要性もわかっていただきながら、こちらの活動にもなかなか協力いただけないという、現場でのジレンマを感じたりもしています。

また、貧困の問題、外国の方々への対応に関しては、先生方も地域も非常に頑張っていると感じています。

【正岡委員】

記者として子どもを取り巻く問題について感じていることは貧困、格差の問題、さらにつけ加えられるのが、やはり児童虐待。大阪は、虐待の相談件数は多く深刻な状況、やはり、地域、学校が連携して子ども、家庭の孤立を防ぐ取り組みが必要。

取り組みが発展すると、児童虐待、地域からの孤立も防いでいくことができる。

【善積委員】

福祉の政策や地域まちづくりが専門ですが、大阪市の地域活動協議会とも関わり、その中で、大阪市の地域団体の方々、他都市の中でも秀でていると感じます。成果も出てきているとは思いますが、課題として地域各差が大きい。できているところとできていないところの格差。セーフティーネットが重要です。貧困、虐待、外国人、その中で地域が次の世代にバトンを渡していけるような関係性をつくりながら安心して生活ができるということをつくろうとするときに、地域の中の違いをできるだけ減らしていくというところをもっと具体的に考え、大阪市という大きな部分と、区の部分での役割分担、支援の中での整理を考えなければいけないと感じます。

今、中教審の働き方改革特別委員会の委員をしております、ガイドラインを策定しています。その中で、先生方は、とにかく多忙で職場の中でもかなり課題があるということ、ガイドラインという中では、先生方の仕事の時間の上限というのが提示されるという方向に今あります。自治体ごとに条例などでその担保をとってほしいと文科省は考えているところなんですね。

先生方の仕事が45時間の時間内でおさまるといって、今、とても無理なわけです。それを実現させるために、働き方改革特別委員会の中では、先生方の仕事をある程度切り離すための手立ての議論があったんですね。その1つのパートナーとしてクローズアップされているのは、やっぱり地域だったんです。地域の方に学校の中に入ってきていただいて、いろんな仕事を一緒にシェアしていただけないかというところが示唆する答えの中の柱になっていまして、そのためには地域とのつながり方、地域にお願いをしていく、ある程度行政として、地域に関わってほしい部分を明確にしていくことが必要。学校と地域がどうつながっていくのかということをはっきりと組み立てていけると、動くことができると思うんですね。

【出相副議長】

大阪の地域性を反映した案を作らないといけない。今後、外国人の方が増えるということもありますし、貧困で大阪は非常に厳しいということもありますので、そういった地域性のことを考えるという視点があると思います。

もうひとつは、教員の働き方改革ですね。教員がいろいろな仕事を抱えている中で総合学習を地域にもっと移していくことですね。例えば、はぐくみネットで、学校教育支援の取り組みの中で、総合的な学習の時間などの授業への参画支援というのがありますけども、この点が1つ大事なポイントになるんじゃないかと思います。

私、毎年こういうテーマで免許更新講習もやって、何百人もの学校の先生にこのテーマで授業をやっているんですけども、地域の人と連携すると、学校の中を見られてしまうという意見も、グループワークの中での学校の先生同士で率直な話の中で出ます。あと、地域と連携すると仕事が増えるというイメージですね。働き方改革の中でも、地域と連携することで先生の負担を減らそうということなんですけども、先生からすると、打ち合わせの時間だとかそういったことで負担が増えてしまうという意識があります。そういった中で、地域連携担当の教職員を置こうということになっていますので、それも実現しつつ、教育委員会の中でも学校教育担当と生涯学習、社会教育担当の意思疎通、連携といいますか、そういったことも大事なことだと思いました。

それともう1つ、地域差があるという話もありましたけども、それと同時に、確かにうまくいっているところもあるんですけども、なぜうまくいっているかという、コーディネーターさん個人の力の場合があるわけですね。だから、コーディネーターさんが変わるといきなり変わってしまうんですね。ですので、持続可能性、個人というよりは組織で支えるという点は重要な点として考えておかないといけないと思います。

【神部議長】

地域と学校の協働の中で、少なくともこうした問題というものにどう対処していくのか、そうした視点は忘れずに、しっかりと持ちながら進めていけたらいいなと思っております。「学校支援」「地域支援」「支援」という言葉が「協働」というものになってきた意識はしていて、特に今までは、学校のために地域が応援、支援するという一方通行という部分もあったと思うんですね。それが、地域と学校が対等な立場でさまざまな問題に取り組んでいこうということであれば、やっぱりこれからの地域学校協働というのは、地域とともにある学校づくりと、もう一方では、学校を核とした地域づくりですね。それがまさに地域学校協働活動の両輪でうまく回って、初めてこの取り組みというのは効果

が見られるのかなど。お互いがお互いを高め合うような関係、そういうイメージを持って、この協働活動のあり方というのをやっぱり考えていくべきなのかなど。そして、その中で、子どもたちの貧困をどうするんだと、あるいは、外国人の子どもたちが地域になじんでいくためにはどうすればいいんだと、そういったことを考えられたらいいのかなど。

そのときに、キーワードになるのが、ソーシャル・キャピタル。まさに大阪計画でも、つながりということを強調していますけども、地域でのソーシャル・キャピタルというのが豊かな地域ほど犯罪も少ないし、非常に子どもたちに対する影響、学力も含めて非常にいい影響を与えているということもありますので、まさにそうしたことを学校支援と地域づくり、そうした両輪というものを意識しながら、その中でさまざまなそういう人間関係とか、つながりということをどう作っていくのか。今日の議論で出た問題というものを具体的に解決していく、そういった取り組みをどうつくれるんだろうか、具体的にどういうものができるんだろうか、そんなことを一緒になって考えていけたらいいのかなというふうに思いながら、皆様のご意見をお聞かせいただいたところです。

小委員会のほうで、議論させていただきまして、全体会でお返ししながら、キャッチボールをしながら、納得のいく形で意見具申が出されればいいかなというふうに思っておりますので、どうぞまた今後ともご協力のほうをよろしくお願いいたします。